

- 問1 北海道の石狩平野では、かつて激しく蛇行していた石狩川の流路を、人工的に作り替える大規模な治水工事が行われました。このような「河川の直線化」が行われた主な理由と、その後の土地利用の変化について説明した記述として最も適切なものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 洪水の被害を軽減して水を速やかに海へ流し、泥炭地を排水して農地を拡大するため。
 2. 水力発電のための貯水池を確保し、周辺に製紙工場を誘致して工業化を進めるため
 3. 内陸部への大型船の通航を可能にし、水上交通を利用した工業地帯を形成するため。
 4. 川の流れを緩やかにすることで土砂を堆積させ、大規模な果樹園を造成するため。
- 問2 1977年から2017年にかけての北海道における稲作の動向について、作付面積と総収穫量はともに減少していますが、1ヘクタールあたりの収穫量は増加傾向にあります。このように、一定の土地面積から得られる収穫量が増える背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 地球温暖化の影響のみによって、北海道全域が稲作に最適な亜熱帯気候に変化したため
 2. 政府の減反政策により、小規模な農家がすべて廃業して大規模農場に集約されたため。
 3. 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。
 4. 化学肥料の使用を一切やめ、伝統的な手作業による農法に回帰したため。
- 問3 日本の農業に関する統計データにおいて、北海道が他の地方と比較して圧倒的に高い数値を示している二つの項目の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）
1. 総農家数に占める兼業農家の割合と、一人あたりの労働時間
 2. 農業従事者一人あたりの農業使用量と、一人あたりのビニールハウスの面積
 3. 単位面積あたりの農業従事者数と、一人あたりの肥料使用量
 4. 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数
- 問4 北海道の石狩平野では、かつて稲作に適さない水分を多く含んだ泥炭地が広がっていました。この土地を農地に変えるために、他の場所から性質の異なる土を運び入れ、もとの土と混ぜ合わせて土壌を改良する方法が行われました。この技術の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）
1. 開拓
 2. 干拓
 3. 客土
 4. 輪作
- 問5 北海道の農業では、1経営体あたりの経営耕地面積が約30.6ヘクタールと全国平均の約14倍に達する大規模な経営が行われています。一方で、自営農業従事者に占める65歳以上の割合が増加し、総農家数が減少しているという課題があります。このような背景から導入が進められている、ロボット技術やICTを活用した「スマート農業」の主な目的として最も適切な説明はどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）
1. 化学肥料の使用を一切禁止し、すべての農作業を人力に切り替えること
 2. 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること
 3. 経営面積を縮小することで、小規模な家族経営農家を保護すること
 4. 手作業による伝統的な農法を維持し、農産物の希少価値を高めること
- 問6 日本の農業統計において、北海道は他地域と比較して耕地面積に占める牧草地の割合が非常に高いという特徴があります。このような広大な土地を利用した酪農で生産される生乳の利用状況について、正しい説明はどれですか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）
1. 生産された生乳は、果樹園の肥料や家畜の飼料としてその大半が地域内で消費されている。
 2. 生産された生乳のほとんどが、鮮度を保持したまま大都市圏へ飲用として出荷されている。
 3. 生産された生乳の8割以上が、バターやチーズなどの加工用として利用されている。
 4. 生産された生乳は、九州地方などの遠方の乳製品工場へ生乳のまま輸送されることが一般的である。
- 問7 日本国内で最大の小麦収穫量を誇る北海道において、生産効率を高めるために展開されている農業経営の特色として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 大阪府公立入試 類似）
1. 1戸あたりの耕地面積が広く、大型機械を活用した大規模な土地利用型農業が行われている
 2. 山間部の傾斜地に作られた階段状の畑を利用し、手作業を中心とした緻密な農業が行われている
 3. 温暖な気候を利用して、同一の耕地で年に2回異なる作物を栽培する二毛作が行われている
 4. 大消費地に近い立地を活かし、限られた土地で付加価値の高い野菜を作る集約的な農業が行われている
- 問8 日本の各地域における農業産出額の内訳を比較すると、北海道は東北地方などと比較して「畜産」が占める割合が非常に大きいという特徴があります。北海道において、特に根釧台地などを中心に大規模な畜産業が発達した背景として最も適切なものはどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 大消費地である東京に隣接しており、新鮮な果物や野菜を毎日トラックで即座に出荷できる立地条件であったため
 2. 広大な土地を活用した大規模経営が可能であり、冷涼な気候が稲作よりも乳牛の飼育に適していたため
 3. 急峻な山地が多く機械化が困難なため、人の手による労働集約的な飼育が伝統的に行われてきたため
 4. 温暖な気候を利用して、一年に二度同じ土地で稲を栽培する二期作を行うよりも効率が良かったため
- 問9 北海道の農業統計において、1970年代後半から約40年間で、稲の作付面積と総収穫量が減少している一方で、単位面積あたりの収穫量が増加している現象を説明する用語として、最も適切なものはどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 自給足率の低下
 2. 農業生産性の向上
 3. 耕作放棄地の拡大
 4. 促成栽培の普及
- 問10 日本の諸地域の特色をまとめた統計において、人口が約532万人であり、豊かな自然環境を背景に宿泊施設の延べ宿泊者数が約356万人、温泉地数が244箇所と全国的にも上位に位置する一方で、国宝の指定件数が1件にとどまっている地域はどこですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 関東地方
 2. 北海道地方
 3. 九州地方
 4. 中部地方
- 問11 東京都から各道県への旅客輸送に関する統計において、ある道県は鉄道の利用者が約19万人であるのに対し、航空機の利用者が約627万人と突出して多くなっています。この統計が示す道県の名称と、航空機の利用割合が極めて高い理由の組み合わせとして最も適切なものを次から選びなさい。（2022年 栃木県公立入試 類似）
1. 道県名は大阪府であり、ビジネス客の利便性を高めるために航空路線の便数が鉄道の運行本数を上回っているから
 2. 道県名は北海道であり、青函トンネルが貨物専用となっており、旅客が鉄道で海を渡ることができないから。
 3. 道県名は新潟県であり、山岳地帯を通過する鉄道よりも、直線的に移動できる航空機の方が効率が良いから。
 4. 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いため、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 洪水の被害を軽減して水を速やかに海へ流し、泥炭地を排水して農地を拡大するため。	石狩平野のような低湿地では、かつて河川が激しく蛇行していたため、大雨のたびに氾濫による深刻な洪水被害が発生していました。流路を直線化する工事（ショートカット）を行うことで、増水した河川の水を速やかに海へ排出できるようになり、治水機能が向上しました。これにより、もともと水分を多く含んでいた泥炭地の排水が進み、畧盤目状の区画を持つ大規模な稲作地帯などの農地へと転換することが可能になりました。
問2	答え 3 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。	北海道の稲作は、かつては寒冷地ゆえの不作に悩まされてきましたが、農業機械の導入などの生産技術の進歩や、「ゆめぴりか」や「ななつぼし」といった耐冷性に優れた品種改良の努力により、単位面積あたりの収穫量（土地生産性）を向上させてきました。米の消費量減少に伴う減反政策などで作付面積や総収穫量自体は減っていますが、技術革新によって効率的な生産が可能になっています。
問3	答え 4 農業従事者一人あたりの耕地面積と、一人あたりのトラクター保有台数	北海道は明治時代以降の開拓の歴史から、農家一戸あたりの経営規模が他の都府県に比べて非常に大きいという特徴があります。広大な農地を少人数で効率よく耕作するために、トラクターなどの大型機械を積極的に導入した結果、一人あたりの耕地面積およびトラクター保有台数の両項目において、全国平均を大きく上回る統計値を示しています。
問4	答え 3 客土	石狩平野などの低湿地には、枯れた植物が腐敗せずに堆積した「泥炭地」が多く分布しており、そのままでは水はけが悪く養分も乏しいため、稲作には向きませんでした。そこで、別の場所から肥沃な土や砂を運んでくる「客土（きゃくど）」という技術が大規模に行われました。これにより土壌の質が向上し、現在のような大規模な稲作地帯へと発展した歴史があります。選択肢にある「干拓」は海や湖を陸地にする、「輪作」は同じ土地で異なる種類の作物を交互に栽培することを指します。
問5	答え 2 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること	北海道の農業は一戸あたりの経営面積が非常に大きいという特徴がありますが、農業従事者の高齢化や減少により、人手不足が深刻な課題となっています。スマート農業は、自動運転トラクターやドローンなどの先端技術を活用することで、大規模な農地での作業を少ない人数で効率よく行い、身体的な負担を減らすために導入されています。
問6	答え 3 生産された生乳の8割以上が、バターやチーズなどの加工用として利用されている。	北海道の農業は、広大な土地を活かした大規模な経営が特徴です。統計資料によると、北海道の耕地はその多くが牧草地であり、そこで生産される生乳の約8割以上がバターやチーズなどの加工用原料に充てられています。これは、都府県の生乳が主に鮮度が重視される飲用として利用されている状況とは対照的です。
問7	答え 1 1戸あたりの耕地面積が広く、大型機械を活用した大規模な土地利用型農業が行われている	北海道の農業は、他都府県と比較して農家1戸あたりの経営面積が非常に大きいことが最大の特徴です。特に小麦や大豆、てんさいなどの畑作においては、トラクターなどの大型農業機械を導入した「土地利用型農業」を行うことで、少ない労働力で広大な面積を管理し、高い生産性を実現しています。これにより、国内の小麦需要を支える重要な供給源となっています。
問8	答え 2 広大な土地を活用した大規模経営が可能であり、冷涼な気候が稲作よりも乳牛の飼育に適していたため	北海道の農業産出額において畜産の割合が高いのは、土地の広大さと気候条件が関係しています。特に根釧台地は冷涼なため、かつては米作りが困難な「冷害」に悩まされてきましたが、その広さを活かして牧草地を確保し、寒さに強い乳牛を育てる酪農へとシフトしたことで、大規模な食料供給基地となりました。他の選択肢にある「二期作」は温暖な地域、「東京への近接性」は近郊農業の解説です。
問9	答え 2 農業生産性の向上	限られた土地からより多くの農産物を得られるようになることは、農業における「生産性の向上」を意味します。北海道では、大規模な農地を活かした機械化や、寒冷な気候に対応した育種技術の確立によって、少ない面積でも効率よく収穫を得る体制が整えられてきました。これは単なる面積の増減ではなく、技術的な進歩を指す重要な概念です。
問10	答え 2 北海道地方	北海道は、広大な土地と豊かな自然資源を活かした観光業が盛んで、温泉地数や宿泊者数は全国有数の規模を誇ります。一方で、明治時代以降の開拓が歴史の中心であるため、近世以前の文化財を中心とする国宝の指定件数は、古くからの歴史を持つ他の地方に比べて少ない傾向にあります。
問11	答え 4 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いこと、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。	東京都から北海道への移動は、距離が非常に長く時間がかかるため、新幹線などの鉄道よりも高速な航空機が選ばれる傾向が顕著です。一般に、交通手段の選択においては「4時間の壁」と呼ばれる基準があり、鉄道（新幹線）での所要時間が4時間を超える場合、航空機のシェアが圧倒的に高くなります。新潟県や大阪府は東京都からの距離が比較的近く、鉄道（新幹線）の利用割合が高い地域であるため、提示された統計データには合致しません。